

おおばしもじょう

No.8 大波下城

舞鶴市字大波下小字新笠他

- ・遺構—曲輪、堀切、堅堀、虎口
- ・占地—山頂
- ・標高—120m
- ・比高—110m
- ・遺跡地図番号—319

河辺川と朝来川の間を東西に標高300m以上の山脈が延びている。この城郭はこの山脈より南へ派生した尾根上に位置する。南山麓は海岸線で海城としての機能を持っていた可能性がある。舞鶴湾への展望はもとより、東の朝来川上流への展望も良い。尾根の先端は西と南へ下り、北の尾根つづきは二重の堀切で遮断し、15m程隔てて曲輪を配置している。西尾根に四段の曲輪が造成され、尾根先には堀切と堅堀をハの字形に敷設している。南尾根も四段の曲輪を造成し、最下段の曲輪の一部には堀切跡が残る。大手道と思われる痕跡が南尾根に残ることから、海岸線に城主の館があったことが想定される。城主に関する記録や伝承はない。

